

9

日本

醍醐寺 《板絵著色天部像 水天・鼓天(醍醐寺五重塔壁画断片)》 《板絵著色天部像 毘紐天妃・楽天(醍醐寺五重塔壁画断片)》

原作は、京都の醍醐寺（世界遺産）の五重塔の連子窓の羽目板絵として、平安時代の 951（天曆 5）年に制作されました。現在は、その一部である二枚の板絵が、東京藝術大学の所蔵となっています。

3D スキャンにより板絵の形状を計測した結果、表の面には槍鉋をかけて平滑な面をつくり、その上に絵が描かれていることが判明しました。それと対照的に、槍鉋による加工が施されていない裏面は、経年変化により、堅い繊維質の木目の部分は残り、木目以外の部分が目減りした結果、非常に特徴的な凹凸が生じています。

このことから、これら板絵のクローン文化財を制作するにあたっては、本物と類似した木材を使用し、表面には槍鉋をかけ、裏面にはエイジング加工により時を経た木肌の表情をつくりました。その上に原作の高精細画像を印刷し、表面に描かれていた絵を再現しました。

さらに、穴や木材の欠損部分を再現し、熟練の技により絵を生き生きとさせる補彩色を施して完成させました。



制作工程 槍鉋で削る様子



制作工程 貼りこみの様子



制作工程 補彩の様子